Keyword 光　希望　完璧主義　自己救済

光について

芸術研究科 造形表現専攻
写真・映像領域 博士前期課程
2025年3月修了

唐 紫云

主査 百瀬 俊哉　**副査** 大日方 欣一　佐藤 慈

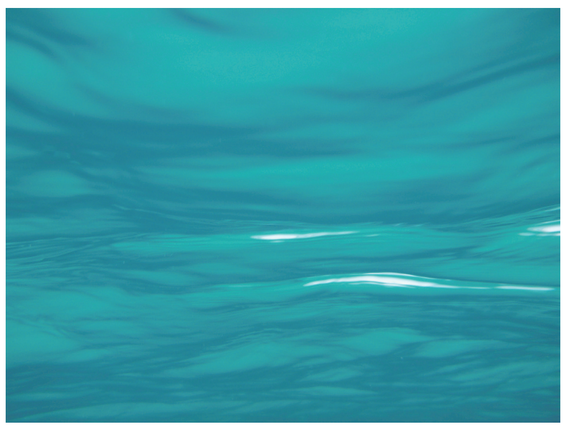
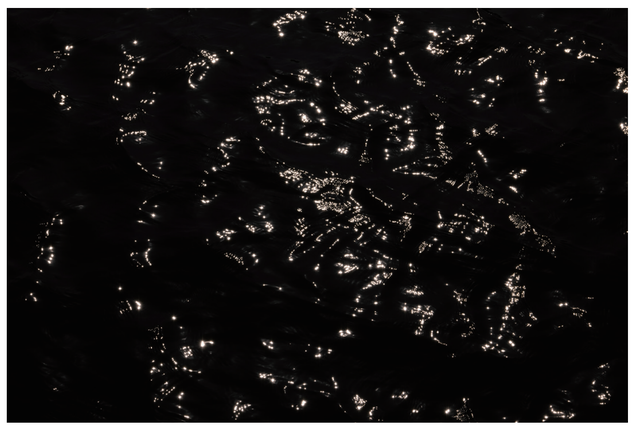
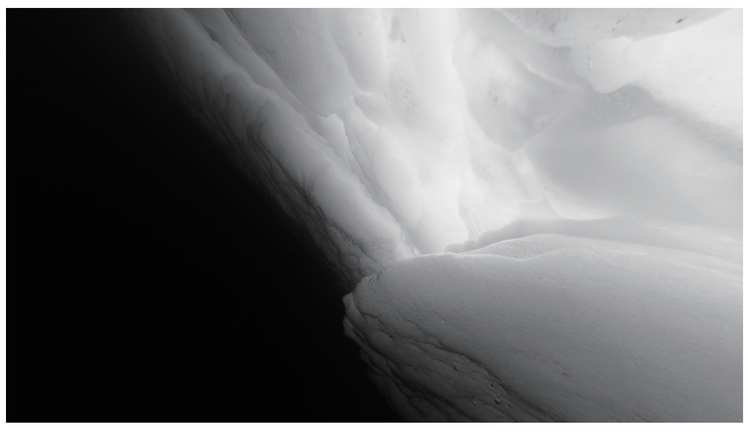
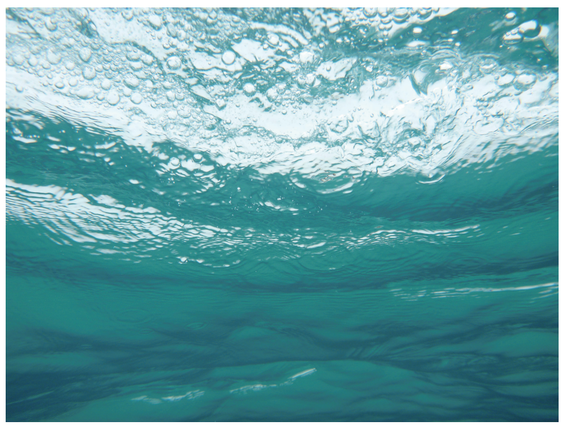
研究背景

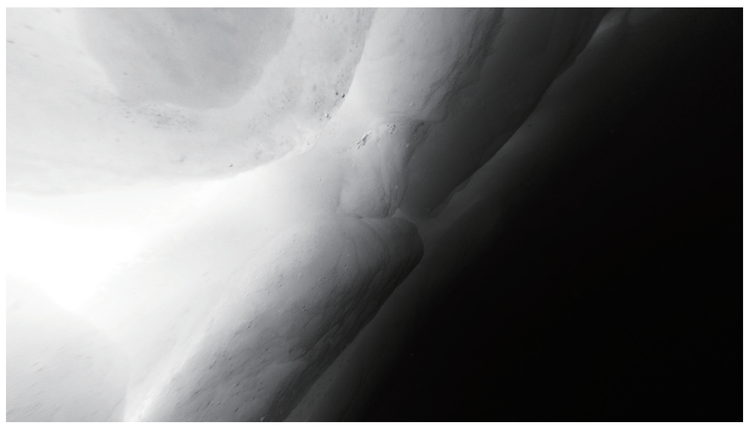
私は小さい頃から体が丈夫ではなかったためか、性格的に偏執的で、失敗を受け入れることが難しい人間でした。その後、美に対する欲求が強かった私は白斑病を患い、自分を否定し続ける日々を送りました。治る見込みがないと知ったときには、人生に希望がないと感じるようになりました。その後、社会はコロナ禍という状況に陥り、家族に会えない時間が長く続き、外出もままならない日々が重なりました。2021年2月には精神的に限界を迎え、帰国することを選択しました。この決断によりストレスが大幅に軽減され、その後、社会が正常化に向かう中で、生活への希望を取り戻すことができました。こうした環境の中で制作した作品です。

研究目的

これらの写真を撮影することで、その時々の心の状態を反映し、それを記録することを意図しました。落ち込んだ時期から徐々に好転するまで、私は撮影を休むことなく続けました。撮影を通じて自身の心を整理し、自分を救うための手段としてこのプロセスを活用しました。撮影経験を積み重ねることで、これらの作品が未来の自分自身へのエールとなると信じています。

研究概要



海　　日月　　流氷

成果・まとめ

作品制作の過程で、自分自身の性格にも不完全さが存在することに気づきました。そして、性格の欠点を意識し、それを捨てようと努力すること自体が、偏執の一つの表れであると感じました。しかしながら、完璧主義が必ずしも悪い影響ばかりをもたらすわけではありません。この特性のおかげで、写真制作において他の人が見逃すような細かい点に気づけるようになったからです。

指導教員コメント

今回の作品「光について」は、内面の弱さや欠点と向き合い、それを作品という形で昇華させた非常に個人的な活動です。同時に、それは普遍的なテーマでもあり、見る者に訴えかける力を持っています。作者が「光」をどのように捉え、写真を通じて表現しているのかは、観る者自身の内面を見つめ直すきっかけとなるでしょう。この作品は、心の奥底にある弱さや困難を乗り越える力を見つけ出す心の記録でもあります。

百瀬 俊哉